

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2020年
1月30日
第166号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

2019・保育を楽しむための連続講座 第4回

「世界の保育、日本の保育?せめぎ合う2つの潮流」+「クラスだよりの魔法力」

今年度は参加者が多く、講師の高橋光幸さん（自治労連保育部会長）は、気合を入れてレジュメを用意して下さったのですが、第4回は前回よりも参加者が少なく19人の参加でした。今回は、世界と日本の保育の違いとクラスだよりの魔法力の話をお聞きしました。

世界には大きく分けて2つの子ども観が存在しています。ひとつは、北欧とフランスを除く中欧諸国が採用する子ども観で「子どもは有能な存在である」。もうひとつは、ニュージーランドを除く英語圏の国々が採用する「子どもは未熟な存在である」という子ども観です。

単純な2項対立での検討は避けるべきですが、保育先進国は「有能」を採用していますが、日本は「未熟」を採用しています。という話から「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」へ。評価じゃないと言っていますが、結果的に個々の子どもを評価する道具になっていること。評価の基準は「ウェルビーイング」と「参加」で、この2つの指標に基づいて施設や実践者を評価することが「大事」ということでした。そして、最後に親の参加の効果に関する研究の要約として、「親が何をやるかということは、親が誰であるかよりも重要」ということを学ぶことができました。

クラスだよりの魔法では、たまに子どもの魔法を記録することもあります。ほとんどが高橋さんの魔法で占められていて、自ら魔法力を振り返るためでもあり、これを読む人々を魔法にかけてしまおうという思いがあります。保護者は高橋さんの息吹を感じ、保育の面白さに触れ、子どもたちがより一層愛おしくなる。ということでした。

グループ交流では、クラスだよりを読んで毎日書いていることを改めて「凄い」と感じたという声がかえった。また、自治体ごとだよりの出し方・取り組み方の違い（例えば、クラスだよりを出さず園だよりに各クラス載せている）を知ることができ視野が広がりました。

次回は2月4日（火）です。皆さんの参加をお待ちしています。



【参加された方の感想】

☆毎回楽しみにしていたクラスだよりをまとめて5日分も読んで嬉しかったです。“保護者とのやりとりは直近の事柄にすると効果的”と知り、効果的と言われると、私もやりたいという気持ちになりました。（文京区 20代保育士）

☆今回初めて参加しましたが、大変勉強になりました。講義を聞いて思ったことは保育業界のICT化はサービスのなものであり、時に「保育ドキュメンテーション」は子どものより良い育ちというより、業務が楽になる→多くの施設が買う→企業が儲かるという、あくまで金儲けのサービスであると感じました。

それから、世界と日本の「子ども観」の違い等大変勉強になり、クラスだよりのおもしろい中に子どもたちの様子がよく書かれており、これは、保護者もおもしろいだろうなと思い、私もクラスだよりをもっと出したいなと思いました。（板橋区 20代保育士）